

令和元年12月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和元年12月23日（月）午後1時～午後1時30分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、米澤新聞社、読売新聞、毎日新聞

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 令和2年度の予算編成作業が進められていると思いますが、再選されて新規事業などをどのように考えていますか。
- (2) その他

5 内 容

○秘書広報課長

それでは、定刻となりましたので、令和元年12月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに、市長から質問に答えさせていただきます。

○市長

よろしくお願いします。事前に頂戴しております質問は「令和2年度の予算編成作業が進められていると思いますが、再選されて新規事業などをどのように考えていますか」というものでした。

国でも、予算編成の中でようやく予算が固まってきたようであります。その中で、地方自治体の方では、地方財政計画がまだ出てきておりません。細かい事業についても、先日、国の補正予算で示された訳ではありますが、そういった中身も含めて、新たな事業がどうかということがあると思います。もう一つは、11月の市長選挙において、市民へお示しした部分もございます。そういったことについて、どのように今後進めていくのか。基本的には、国や県との関係で新規事業も出てくると思います。

また、選挙で示した部分につきまして、12月定例会での一般質問あるいは、予算委員会での質問でもありましたように、高校生までの医療費の無償化につきましても、新年度に向けてどこまで進めることができるのか、今検討しているところであります。もう一点、こちらもご指摘があった屋内遊戯施設についても、庁内の組織を立ち上げるということで、そのような準備に取り掛かっているところであります。また、国との関係についても、市単独ということよりも、民間団体との連携を推進しながらという部分もありますので、このように連携も取りながら、新たな事業展開へということ

を考えているところです。

また、3つの高速道路インターチェンジ周辺の工業団地の在り方についても、ご質問をいただいておりますので、その周辺の土地利用というものも今の段階からいろいろと話を進めていかなければならないと思っております。新規事業について作業を進めているところについては以上のようなものであります。

○秘書広報課長

ここからは幹事社を中心に質疑に移ります。よろしくお願いたします。

○幹事社

国の予算について、知事がコメントを出しておりますが、このコメントについては米沢市に来ていますか。

○市長

まだ、そういったものは来ておりません。県は県で知事がコメントを発表されたということもありますし、来年度の予算よりも関心を持っているものというのは、補正予算関係で、景気対策を含めて20兆円を超える内容となっております。内容を見て、これは米沢市と関わりのある分野もあると考えられるものもあります。これは米沢市だけでなく、民間団体との関わりもありますので、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

○幹事社

具体的な事業は出てきませんでした。市長がこれだけは絶対やらなければならないと思う事業は、高校生までの医療費無償化でしょうか。

○市長

これは、選挙で約束してきた公約でありますので、任期中にということとは4年間の中でということになります。なるべく早めに市民にお示ししたのものについては実現したいと思っております。予算編成とのからみの中で、どこまで新年度でできるのかということも含めて、今検討を進めているという状況です。

○幹事社

分かりました。他に質問などはありますか。

○記者

高校生までの医療費の無償化について質問です。一般質問を聞いていて、新年度から実施すると言ってしまうえば良かったのにと感じてしまったのですが、そう簡単に言えないハードルは何でしょうか。

○市長

方向性については財政の裏付けがなければできないものですので、その辺については、担当と打ち合わせをしていますが、具体的にどこまでどうかということについては、まだ進んでおりませんでした。やりますということは言ったのですが、新年度の予算との関係を見ながら手を付けていきたいとは考えております。

○幹事社

手を付けていきたいということは、やるということですね。

○市長

はい。そのような意味で取っていただいて構わないと思います。

○記者

大沼米沢店が売却されたということがありましたが、米沢市としては中心市街地の活性化などいろいろ取り組まれてきた訳ですので、あそこはあれで良かったのか、どうなのでしょう。

○市長

「大沼、実業家に売却」という見出しのものを新聞報道では見ましたが、新聞報道だけであって、取得された方から報告があった訳ではありません。

○幹事社

何もなかったのですか。

○市長

はい。取得目的が何かということも一切お聞きしておりません。

○幹事社

米沢市へ情報が入っているものだと思っておりました。

○市長

私は新聞で拝見しただけです。ただ、どうなっているのかということについては、いろいろな方々からお聞きして、そちらの人の方が情報を知っているということもありましたので、まだ正式にどうするかということにはなっておりません。

○幹事社

分かりました。その他についてはどうでしょうか。

○記者

11月の選挙から1か月以上経ちますが、24票差ということで、市長は「市民総参加のまちづくり」をやっていきたいという想いを語っていましたが、具体的にもう少し、市長の中で考え方の展開などがあれば教えてください。

○市長

基本的に、就任してから市民総参加ということで、いろいろな事業に取り組んできたと思っております。これは行政単独で進めるものもありますが、例えば、「健康長寿日本一」については、市民にどう理解いただくか。皆さんと一緒にやらないと、健康長寿日本一は到底できるものではないということは、お話しさせていただきました。

また、「ようざん桜の杜」についても、「米沢市は段取りはしますが、後は市民や民間団体の皆さんに行っていただく事業です」ということは言ってきておりました。

地域や団体の方にもご理解をいただいて、今後、どう進めていくのかということですので。これからの市政運営についても、基本的には、市民の理解を得ながら、共に市民が参加して、まちづくりをしていこうということについて、「市民総参加のまちづくり」という言葉で表現をさせていただきました。

ですから、ブランド戦略もそうですが、継続して情報をしっかりと市民の皆さんにお伝えしながら、そして、より多くの市民の皆さんからご支援、ご協力をいただきな

がら、それぞれの分野において、進めていかなければなりません。このことは、常々、お話しをさせていただいておりますし、いろいろな団体の会合でも話はしております。新年を迎えると、各地区の新年会もありますので、その席では挨拶の中で、そういったことも取り入れながら、米沢の新しいまちづくりを進めていきたいと思いますというお話しはさせていただきたいと思っております。

○記者

選挙を振り返ると、結果がほぼ二分されたという意味合いもあったと思います。また、選挙中から、商工会議所との連携は上手くいっているのかという声もありました。商工会議所は11月で新体制になったと思うのですが、その辺りの連携については、経済界とは一体となっていくのでしょうか。

○市長

正直に言って、私としてはあまり気にしていません。これからの市政を運営するにしても、選挙の勝ち負けは当然ある訳であります。どのような理由で二分されるようになったのかということについては分かりません。

ただ、行政運営と経済運営を担っていくという視点では、商工会議所ではこれから新たな会館建設ということもあるようですし、それぞれ持っていた事務所を一つの建物として、という話も聞いておりますので、本市の経済を会議所が中心となってリードしていくということにもなっていくでしょうから、しっかりと連携を取っていかねばならないと思っております。

今日も、会頭、副会頭がお見えになって、お話しをさせていただきました。選挙の結果は結果であるにしても、私はこだわりなく連携を取って、いろいろな話を進めていきたいと思っております。

○記者

今日はどのような話をしたのですか。

○市長

今進めている会館建設の中で、「こういった中身にしたいという話は市長の耳にも入れておいた方が良いでしょうから」ということで、お話しさせていただきました。

○記者

今日の話は会館建設について協力を得たいという話もあったのですか。

○市長

もちろん、協力といいますか、そういった話も前からありました。産業会館としての位置付けと考えるならば、観光コンベンション協会との連携も考えているということです。ですから、「いまこういうことになっています」という報告もいただきながら、今後の米沢市との連携についても懇談をしたところです。

○記者

市長から要望したことはなかったですか。

○市長

要望ということはなく、あくまでも今の取り組み状況をお聞きして、懇談したとい

うのが今日の内容です。

○記者

去年の12月に会議所から要望書が出たと思うのですが、それに対して回答したということはありませんか。

○市長

回答するような内容ではなかったと思います。いろいろな要望書が会議所からあるものですから、去年の12月のものがどのような内容だったのか分かりません。

○記者

魅力あるまちづくりや会館の建設もあったと思うのですが。

○市長

全ての内容は分かりませんが、今日の話の内容というのは、主に、新たに建設される会館について、このような機能を持たせたいという中身の懇談でした。

○記者

さっき言われた、民間団体と連携して新たな事業を展開するという事は、会議所のことではないのですか。

○市長

会議所だけでなく、例えば、今は道の駅米沢が繁盛していますよね。この前の補正予算に、道の駅を拠点とした防災対策の強化というものも入っていたものですから、こういったものに、道の駅周辺の土地をどう割り当てるのかということも含めて、今後新たな対応も出てくるのかなと思います。それが実現するかしないかは別にしても、米沢市単独で進められるものと、やはり、道の駅だと県や株式会社の考え方もあるでしょうから、連携をしていかないと、行政が一方的に進めていくということもいきません。ただ、どのような状況なのかについては、所管が国交省のようですから、すでに内容調査はしております。

○記者

今の関連であえて伺っておきます。道の駅の防災機能ということですが、置賜管内でいくと、国交省からすると、飯豊を重点的にやっているというのが自分の理解なのですが、そうすると益々置賜の中での、役割分担と申しますか、個々の道の駅で自分のところもやるということになると、何となく横のつながりが見えてこなくなると申します。

○市長

道の駅米沢はご承知のとおり、防災という観点も入っていますが、基本的には国交省から重点道の駅、ゲートウェイ型の道の駅として、指定された道の駅です。飯豊は飯豊で、大々的な防災の施設はどうなっているのか分かりませんが、本当にしっかりと防災拠点になっているかという点、飯豊も米沢の道の駅も、必ずしも私は十分ではないと思っています。ですから、道の駅米沢が太平洋側、日本海側の間にある内陸部の防災拠点になっていけば良いのですが、補正予算関係でも概要的なものがまだ十分に見えてきていませんでしたので、どのようにしたら良いのかという調査も含め

て、今、進めているという状況です。

○記者

是非、それが具体化されてこのような場で発表されるようなものになることを期待しております。

○市長

そうですね。第一段階が少しだけ歩みだしたただけですから、必要であれば、関係団体と連携を取って行っていきたいと思います。

○幹事社

他に質問などある方いらっしゃいますでしょうか。

○秘書広報課長

無いようですので、令和元年12月の定例記者会見を終了いたします。